

# 企業の成長を導く 次世代オフィスとは

8月25日、東京・大手町にて第3回「理想のオフィス研究会(サンケイビル主催)」が開かれた。新時代のワークスタイルに詳しいコクヨの齋藤敦子氏がファシリテーターを務め、成長企業のリーダーであるネットイヤーグループ社長の石黒不二代氏とエバーノート日本法人の井上健氏、ビル会社であるサンケイビルの遠藤健氏が出席。これからの時代、企業が成長するためのオフィスのあり方を討論した。

## ■ オフィスからみる 日米のビジネス環境

齋藤 米シリコンバレーでは世界屈指の人材が集まり、新しいビジネスや企業が次々に生まれています。お二人はシリコンバレーでの経験をお持ちですが、日本との違いは。石黒 シリコンバレーの環境は一言で言うと市場形成型。柔軟でオープンなビジネス文化がありますね。当時の経験が、起業した大きなきっかけでもあります。井上 エバーノートはシリコンバレー発のベンチャー企業です。ワークプレイス(働く場所)も重視しており、オフィスづくりはブランド部門が担当しています。私自身は日本国内の銀行に勤めていたこともあるので、全く異なる考え方ですね。齋藤 お二人とも働き方に注目し生産性を支援するビジネスを展開しています。実際に社員の方々はどんなワークスタイルを実践しているのですか。



ネットイヤーグループ株式会社  
代表取締役社長 兼 CEO  
石黒 不二代氏



Evernote 日本代表  
井上 健氏

## 成長企業のリーダーが語る

## ■ オフィスは人と 情報が出会う創発の場へ

齋藤 オフィスとは本来、経営戦略の一部です。両社のオフィスは、実際にどんな特徴がありますか。石黒 会社のビジョンを発信しつつ、カジュアルなコミュニケーションが活発に起きるような雰囲気になっています。皆が自由に集まれるスペース内には社長室もありません。ガラス張りにしています。社長室はミーティングルームとしても使います。井上 私たちもコミュニケーションを重視しています。部門の垣根をなくす見通しのよいレイアウトで、社内「バリストアバー」では社員が交代でバリストアとなりコピーをいれています。日常的な会話からアイデアが生まれることも少なくありません。シリコンバレーの本社は、社内の風通しが良くなるよう、内階段で上下フロアをつなげています。石黒 シリコンバレーの企業は近年コミュニケーションを重視し始め、オフィスに人が集まってくるようにしています。日常的なコミュニケーションが増えることは、生産性にも関わるという理解が広がって

サンケイビルの  
ミッドサイズオフィスビル

2015年7月末竣工  
S-GATE赤坂  
www.s-gate-office.com



株式会社サンケイビル  
取締役常務執行役員  
遠藤 健氏



コクヨ株式会社  
WORKSIGHT LAB. 主幹研究員  
齋藤 敦子氏



東京サンケイビル6階「吉今」ラウンジにて行われた